

●神奈川で治療と仕事の両立支援セミナー開催

かつては「不治」とされてきた疾病も医療の進歩により「治療を続けながら長くつきあう病気」に変わりつつある。しかし、仕事の都合で適切な治療が受けられない、職場の支援不足などで仕事が続けられないケースも見られ、また病気を抱える労働者の雇用管理に悩んでいる事業場も多い。そこで、神奈川労働局では両立支援対策の促進に取り組む関係機関との情報共有・連携の強化を図るため、昨年8月に連絡会議（神奈川県両立支援推進チーム）を設置した。

2月14日、同チームの主催で、企業経営者や人事・労務担当者、産業保健スタッフ等約80人が参加し、横浜第2合同庁舎会議室で両立支援の促進のためのセミナーが開催された。このセミナーでは、講演「がん治療と就労を両立できる社会を目指して」（順天堂大学医学部准教授の遠藤源樹氏）の後、神奈川県立がんセンター、関東労災病院、横浜公共職業安定所から支援のしくみの説明が行われた。引き続き、「病気になってもならなくても従業員が安心して働き続けるためにできること」（日本キャリア開発協会のキャリアコンサルタント砂川未夏氏）、「治療と仕事の両立支援～社員が健康で安心して働くことが出来る環境を～」(ティーペック(株)人事総務部長の大神田直明氏)の講演が行われた。